

野の仏さまにおききしました

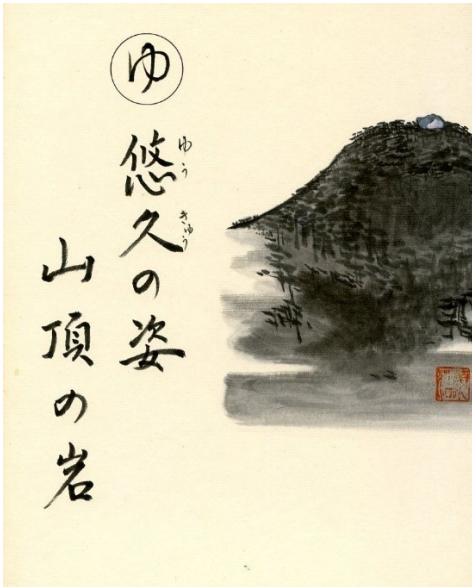
2023.4.10 (月) NO13

いにしえ かんが いま
古に稽へて今を照らす

過去を振り返ることが今の指針となる

太安万侶「古事記」

古くてもよいものを理解し、大切にすることで、今のあり方を考え、将来の参考にすることができます。新しいことに挑戦するときは、つい将来にばかり目を奪われがちです。しかし、今までの積み重ねられてきた歴史の中にこそ、現在や将来の指針となるものが眠っているのです。昔のことだからと軽く扱わず、十分に理解し参考にしようと努めれば、それは光を放ち、今と未来を明るく照らしてくれるでしょう。



郷土史かるた



聖観音さん(梵字・サ)



残したい風景

臣安万侶(太安万侶)がもうしあげます。

およそ、混沌した始めの気が既に凝結して、きざし・形はまだ現れない。

名付けようがなく、働きもないから、だれがその形を知りえようか。

しかしながら、天地が初めて分かると、三神が万物の始まりとなった。

陰と陽とがここで分かれて、二柱の神(伊邪那岐命いざなのみことと伊邪那美命いざなみのみこと)がすべてのものの生み親となった。

そして、この二神は、黄泉国・現し国に行き帰り、褌して目を洗う時に、日神(天照大御神ひのかみ)・月神(月読命あまてらすおのみかみ)
が現れた。海水に浮き沈みして褌した時に、神々が現れた。

さて、世界の始めのさまは奥暗いけれども、語り伝えによって、国土を孕み島を生んだ時のことを知る。

元始の様子ははるかに遠いけれども、先聖によって、神・人を生み立てた世のことを知る。

まことによく知ることができるのは、鏡をかけ、珠を噛み吹き捨てて神を得て、百王相續もものきみくこととなり、剣を噛み吐き出して女神を得て(うけい)、大蛇を斬って(八岐の大蛇退治)神々が栄えたことである。かくて、天の安の河原で神々が相談して天下を平らげなさり、小浜で説得して(国譲り)、国土を平定なさせた。

こうして、番仁岐命ほのにぎのみことが、初めて高千穂の峰に降っていらっしゃって(天孫降臨てんそんこうりん)、神武天皇かむやまとのすめらみことが大和国に巡り至られたが、熊と化したものが爪を出した時には、天から降した剣を高倉の中に得られて危機を脱した。尾のある人が道を遮ると大きい鳥が(八咫鳥)が吉野で天皇をお導き申し上げた。そして舞を舞って賊を打ち払いなさり、歌を合図に敵をお打ちになった(土雲退治)。さてまた、夢にさとしを得て神祇を祭った賢明な君(崇神天皇)をたたえ申し上げ、炊煙を見て人民の困窮を知り慈しまれた聖帝(仁徳天皇)を今にたたえている… (略)。



私たちのまちのシンボル交野山

自然の情緒、趣きというのは、人間の心にも深く影響してきます。絶対に、自然を見て腹を立てる人はいない。ムシャクシャしておる時でも自然が癒してくれる。その自然を破壊して知らん顔しとるのやから、腹立ちが多くなって人間関係も殺伐たるものになってくる。当然の帰結でしょう。元に戻すのはさぞや大変かという、そんなことはない。二千五百年の歴史の中で、二千四百年ほどは自然と共に生きてきた。自然から離れたのは、たかだかこの百年ほど。これを元に戻すのは、わけないのや。いまやったら、出来る。と野の仏さまは強いお言葉でおっしゃいました。